

平成31年3月発行

広尾っ子応援団だより (No.3)

広尾っ子応援団本部事務局（教育委員会社会教育課）電話 01558-2-0181



家庭・地域の教育環境について意見交流

学校運営協議会ではコミュニティ・スクールの重点教育目標を目指す「家庭・地域の取組」について話し合いを進めます。その前段階として、教育環境のプラス要因やマイナス要因について意見交換しました。

【広尾小】

【豊似小】

【広尾中】



(1) 広尾小学校

【重点教育目標】

- 思いやりや感謝の心をもち、郷土を大切にする子ども
- 主体的に学び、粘り強く行動する子ども

	学校	家庭・地域
プラス要因	食育、ふるさと給食、「津波が来るかも」という気持ちで避難訓練、若い先生方が多い（ICTに強い）、自然の中に学校がある、歴史がある	地層が見える場所がある、水産業と農業の両方がある、祖父、祖母が近くにいる、広尾は十勝、北海道でも歴史が古い（もっと勉強しよう）、地域に卒業生が沢山いる、水野さんなど町外の卒業生の有名人がいる、札幌広尾会、海鮮が旨い、自然が豊か、海がある、酪農体験・工場見学のある場所がある（例えば十勝飼料）、高規格道路が整備されると帯広への幅も広がる
— 今の先生はやさしい（どちらの要因にも） —		
マイナス要因	スケートリンクを利用できる期間が短い、帯広近郊の見学学習が遠くて大変（新聞社・美術館等）、時間が足りない	保護者の（子どもたちに対する）協力が少ない、遠足などでダニが付いたら大騒ぎするような最近の風潮、地元よさに気付かない、広尾のよさを生かしきっていない、インターネット、商品の品数が少ない

(2) 豊似小学校

【重点教育目標】

- 心豊かでたくましく、主体的に考え、積極的に行動できる子どもを育てる

	学校	家庭・地域
プラス要因	子ども一人一人に出番が多い、校舎が新しい、色々な体験ができる、教育熱心な先生たち、少人数	協力的な保護者・地域、家の前まで送迎（便利・安心）、現在の世代の人たちには子どもが多い、協力し合う下地、地域のまとまり、地域の人が集まる、体験事業に快く参加、シニアとの交流が可能、技術をもった人、互いの名前を知っている、ほぼ知り合いや知人で子どもも馴染みやすい、大人も子供も地域の人顔を覚えやすい、お巡りさんが身近にいる、豊似小の先生の名前が分かる、記念碑
マイナス要因	先生方の多忙化、グラウンドが遠い、農園が無い、本物・一流に触れる機会、子ども人間関係が広がらない、放課後の過ごし方が限定されている、多様な意見、教職員の数	見学・訪問して学ぶところが限られる、冬のスポーツが少ない、冬の天候に左右（スケートなど）、人口減、家の前まで送迎することで体力低下が心配、農家の場合学校から帰ると交流ができない、学校以外で子ども同士の交流がしにくい、広尾中の先生方・生徒の名前が分からない、家でゲーム、子どもが遊ぶ姿を見ない

(3) 広尾中学校

【重点教育目標】

- 広尾町の自然、文化、歴史等について関心を持ち、郷土を愛する人を育てる。【郷土愛】

	学校	家庭・地域
プラス要因	地域学習（総合的な学習の時間）、異年齢交流（小中、中高）の機会、職業体験、町内清掃、挨拶運動	昔の写真をもっている家庭、昔のことを知っている高齢者、フンベの滝の不思議、立岩（戦争時の役割）、陣屋、十勝神社、二見岩、重要港湾・十勝港、大丸山森林公園、サンタランド、地域内の挨拶運動の取組、漁業体験が可能（地曳網）、漁業加工品、1次産業（漁業、農業、林業）、博物館、そこから海が見える、農協に保存資料、広尾っ子応援団、オオバナノエンレイソウの群生地
マイナス要因	主体性に欠ける、情報収集に苦労している（例えば職場体験の受け入れ先）、甲子園メモリアルが活かされていない	広尾町の始まり（150年前）の史料、家庭内のコミュニケーションの不足、苦労する経験の不足、高齢化による生活の手伝いのニーズが増大（ゴミ出し、除雪）、地域ボランティアが不足、外部講師の確保が困難、海・山・川に囲まれた雄大な自然を活かしていない、サンタランドが活かされていない、広尾町に温泉が無い、昔を知る人が少なくなった